

個別研修（末永 美紀子）

研修テーマ：障害児者の生涯にわたる福祉と教育を支える共同体を知る

イギリス：スコットランド Newton Dee Community

スコットランド アバディーンは、1940年代にキャンプヒル運動が始まった地で、この地にある Newton Dee Community は、主に知的障害や発達障害、学習障害を持った成人が家族やコワーカーと仕事をしたり、生活を共にしたりしている。現在、約 200 人がコミュニティの構成員となっている。



【コミュニティの中心にあるオフィスとホールの建物】

受付や会計管理、政府資金を調達し監査に応えるための書類づくりなどの仕事が行われているほか、数百人が入れるホールも備えている。

【高齢障害者のための Activity Workshop】

他の木工や金属加工の工房、ペーカリーなどで働くほどの体力や視力、手先の器用さや認知能力に課題がある場合でも、月～金まで午前・午後と行われるこのワークショップで、さまざまな手工芸や芸術活動に参加できる。水彩、編み物、カラフルな羊毛手芸、合唱や輪唱、簡単な楽器を使った合奏、詩の朗読、おしゃべり、皆で協力して用意や片付けをするティータイム、時に散歩やお花見など、さまざまなアクティビティを年間を通じて行っている。作品は、受付や廊下の壁に飾られたり、テーブルセンターとして使われたり、外部への販売までには至らなくとも、活動が共同体で共有されたり役立つものであることも大切にしている。





準備や片付け、色選びも明確で分かりやすい
水彩絵の具



楽譜が読めなくても、皆で合奏できる楽器。
ドとファを抜いた 5 音で構成するペントニック
の音だけを選べば不協和音ができないので、
みんなで美しい即興演奏が楽しめる。



壁に並ぶ大きなファイルは、それぞれの利用者
ごとに分けられており、それぞれが作った作
品や制作の様子を写真に取ったものにコメン
トを添えたものをファイリングしてある。利用者
自身がそれを開くことで、昨年度の様子を思
い出すことができ、今年の作品作りに活かし
たり、お互いに見せ合うなどの効果を持っている。
また、グループ全体でもイヤーズブックを作
成しており、その年の活動を写真集として製
本している。

【野菜と花畑】

共同体の台所やダイニングを飾る花と、食卓のための野菜を作っている農場。ここでも午前と午後にそれぞれコワーカーと障害者が集まり、天候等のスケジュールに沿って、種まき、苗の植え付け、コンポストづくりなどに取り組む。



この他に牛や馬、豚、鶏、アヒルなども飼われている。大型の農業機具も複数台用意されている。



【キャンプヒルについて】

キャンプヒルは、政府によるいわゆる「障害者のコロニー政策」ではなく、あくまでも当事者とそれを支えたいという医師や教師たちの志によって始められた持続可能な共同体生活の場である。そのため、障害児者の住まいは「住宅」で、家族やハウス・ペアレント、コワーカーと呼ばれる人々によって支えられており、その家から学校やワークショップ（工房）に通う。

社会的に阻害されていた障害児者とその家族や、政治的に迫害された歴史の中から発足した形ではあるが、現在はヨーロッパを中心に北米、南アフリカ、アジアでも各地で数多くの同様の共同体が生まれ、運営されている。

設立から数十年を経た共同体も多く、高齢化や医療的なケア、認知症への対応等も必要となり、多くの共同体がそれぞれに最後まで隣人であり友人である障害児者、コワーカー、教師たちの引退後や病床を支える仕組みを構築する仕組み作りを行っている。

また、地域社会から隔絶することなく、つながりを保つための工夫として、パンや農産物の販売を行ったり、カフェや遊び場を開放していつでも地域の人を訪れられるようにしていたり、職員や障害児者もコミュニティの敷地外に住んで通ってくるケースも増えている。